

『小学校英語教育学会誌』(JES Journal Vol.26) 執筆要領

『小学校英語教育学会誌』(JES Journal) は、小学校英語教育学会の発行する査読付き学会誌である。本学会誌は、小学校の英語教育に関する研究及び実践に関して、実証的、実践的または、理論的に優れた論文を掲載する。

1. 投稿の条件及び諸注意

- (1) 2025年度の全国大会で自由研究発表されたもので、1人2編（筆頭著者となれるのはうち1編のみ）とする。加えて、JESブロック共同研究発表に基づく論文を1編投稿できる。原則として、発表時点からの執筆者の追加や削除は認められない。
- (2) 発表時点からの執筆者の加除について妥当な理由がある場合は、投稿期間初日からさかのぼって2週間前（投稿期間が月曜日から開始の場合は2週間前の月曜日）の日本時間23:59:59までに、JES学会誌編集委員会（問い合わせ先は、執筆要領14. 投稿に関する問い合わせ を参照）に連絡し、承認を得ることで執筆者を変更することができる。なお、JESブロック共同研究発表に基づく論文の場合、ブロック共同研究メンバーとして登録されている者であれば、全国大会での発表者ではない場合でも執筆者として追加することができる。その場合でも記載の手続きによってJES学会誌編集委員会に事前に申請し、執筆者の追加について承認を得ること。
- (3) 执筆者は全員が学会員であること。投稿の際は研究論文か実践論文かを申告すること。論文カテゴリーを決定する際、以下を参照すること。

【研究論文】

関連する先行研究を踏まえて、新たな視点・解釈を提供し、適切かつ妥当な研究方法により、小学校の英語教育の学術研究・授業実践の発展に寄与する研究成果を十分な論拠・証拠をもって導き出しているものとする。

【実践論文】

関連する先行実践例や先行研究を踏まえて、授業改善に有効であると考えられる方法を実践し、その内容と結果を適切に記述することで、授業改善や実践研究の発展に寄与する情報を提示しているものとする。

- (4) 投稿論文は、学会Webサイト（「JES各委員会」>「学会誌編集委員会」ページ）上のテンプレートを使用するとともに、所定の執筆要領やサンプルに従って作成すること。テンプレートを使用していないものや、執筆要領に違反するものは、査読の対象としない。
- (5) 英文原稿及び英文題目は英語母語話者または同等の英語力を有する者によるチェックを投稿前に受けておくこと。
- (6) 統計処理を用いた論文は必要に応じて統計の専門家のチェックを投稿前に受けておくこと。
- (7) カラーの使用は認めない。
- (8) なお、JES課題研究に採択された研究については、課題研究募集要項に従い、JES課題研究委員会の試読を経て、その最終報告を本学会誌に掲載することとする。課題研究の報告書については、査読なし扱いとする。

2. 使用言語

使用言語は日本語または英語とする。

3. 投稿原稿の提出方法

投稿原稿は、学会Webサイトに掲載されているテンプレートを用いて作成し、「事務局保管用」と「査読用」をそれぞれWordとPDFで提出する。「事務局保管用」は完全原稿のファイルとし、「査読用」は執筆者が特定可能と思われる、以下の全ての記述をその文字数分のXXXで置換して表示させ、特定できないようにする。

- 执筆者の氏名、所属機関名

- 本文中の執筆者の氏名が含まれる文献の情報 (例) 太平 (2000) → XX (XXXX)
- 注や謝辞等において執筆者を特定することが可能と思われる記述及び科学研究費補助金等による研究への言及に関する情報
- 引用文献に執筆者の氏名が含まれているものがある場合は、その文献情報の文字数分をXXXXで表記し、リストの最後尾に置く。XXXXによる個人情報秘匿の前の段階で必要になる行数分を必ずXXXXで確保すること。
(例) 太平太郎 (2000)『小学英語』AZ書店 → XXXX (XXXX) XXXXXXXXXXXXXXXXX
[文献リストの最後尾に置く]

ファイル名は、半角小文字で投稿者（筆頭著者）の名字と名前を使用し、「投稿者名（事務局保管用）」「投稿者名（査読用）」とすること。例えば、「紀要花子」の場合、「kiyohanako（事務局保管用）」「kiyohanako（査読用）」となる。

投稿原稿の提出は、学会Webサイト（「JES各委員会」>「学会誌編集委員会」のページ）上の投稿フォーム（*JES Journal*投稿フォーム及び*JES Journal*スタイルチェック）に必要事項を記入し、所定の欄に投稿原稿をアップロードして送信すること。

4. 原稿提出の期間

提出期間は、日本時間で 2025年8月25日（月）～8月31日（日）23:59:59（7日間） とする。

5. 原稿受領確認手続き及びPCウィルス対策のお願い

*JES Journal*投稿フォームで送信した後、受理メールが自動的に投稿者及び共著者全員に返信される。3日経っても受理メールが届かない場合は、すみやかに学会誌編集委員会事務局にメールで問い合わせること。投稿の事実が確認できる証明（上述の自動的に返信される受理メール）が締め切り後1週間以内に提出された場合、原稿を受領する。なお、投稿前にコンピューター及び投稿ファイルにウィルス感染がないことを確認すること。

6. 論文の構成

論文の構成は、(1)論文題目、(2)執筆者氏名、(3)所属機関名、(4)キーワード、(5)要旨、(6)本文 [(a) 目的、(b) 先行研究・実践、(c) 方法（倫理的配慮についての言及を含む）、(d) 結果及び考察]、(7)注、(8)付記（謝辞、利益相反についての言及も含む）、(9)引用文献、(10)付録の順番とする。ただし、(7)注及び(10)付録は必要に応じて記載するもので、必須ではない。具体的には、以下を参照のこと。

(1) **論文題目**：英文原稿の場合は英文題目、和文原稿の場合には和文題目のみを書くこと。

ただし、投稿時に提出する投稿フォームでは、学会誌の目次用に、和文原稿についても英文題目を入力し提出すること。

(2) **執筆者氏名**：英文原稿、和文原稿共に姓・名の順に書き、姓と名の間に半角スペースを入れる。英文原稿の姓は全て大文字で表記する。執筆者が複数の場合、1行毎に1名の執筆者を書く。詳細は次項(3)を参照するとともに、以下の例やサンプルで詳細を確認すること。

(3) **所属機関名**：和文原稿の場合は、姓・名の後に続けて全角丸括弧内に執筆者の所属を記入すること。常勤講師以外は、機関名の後に半角スペースを置き、非常勤の場合は非常勤講師、大学の学部生の場合は学部生、大学院生の場合は大学院生と記入する。なお現職教員の大学院生の場合は、勤務先である所属機関名のみを記入する。英文原稿の場合も、所属機関名と身分（Part-time lecturer / Undergraduate student / Graduate student）を半角丸括弧内に英語表記する。英文については、所属と身分の間に半角カンマ及び半角スペースを挿入する。詳細は、以下の例やサンプルで確認すること。

[和文原稿の例]

山野 みどり（赤田大学）

青森 明彦（青木教育大学 非常勤講師）

琵琶 真一（青木教育大学 大学院生）

[英文原稿の例]

YAMANO Midori (Akada University)

AOMORI Akihiko (Aoki University of Education, Part-time lecturer)

BIWA Shinichi (Aoki University of Education, Graduate student)

- (4) **キーワード** : 3語とする。和文原稿の場合は日本語と英語のどちらでも可とし、英文原稿の場合は英語のみ可とする。
- (5) **要旨** : 要旨の長さは10~15行とする。和文の場合は日本語で、英文の場合は英語で記す。
- (6) **本文** : 要旨の後1行空けてから本文を書き始めること。各セクションの見出しあは太文字を使い、センタリングするとともに、前後に1行の空白を設けること。セクション内の小見出しあも太文字とするが、左寄せし、後に1行の空白は設けない。和文原稿の場合、句読点は全角の「、」「。」を、(丸括弧) や「カギ括弧」は全角を用いること(引用文献における出版年を除く)。
- (7) **付記** : 謝辞及び利益相反に関する事項(執筆要領13. 投稿にあたっての倫理的指針を参照)、並びに論文に関して付記すべき事項を記載する。また、JES ブロック共同研究発表に基づく論文の場合は、「本論文は JES 共同研究委員会で選定された〇〇ブロック共同研究の成果発表である。」(〇〇はブロック名)と記載すること。

7. 原稿の書式(学会誌編集委員会指定のテンプレートで設定済み)

(1) 原稿の総ページ数

原稿の総ページ数は、論文題目、執筆者氏名、所属機関名、キーワード、要旨、本文、注、付記、引用文献、付録、図、表等を全て含めて6ページ以上、16ページ以内とする。

(2) 用紙サイズ及び行数と1行の文字数

用紙 A4判、縦置き、横書き、45字(英文の場合は半角90字)×38行

余白 上25mm、下25mm、左25mm、右25mm

以上は、本文だけでなく、注と引用文献にも適用される。ただし、図表、グラフ、付録については、行間等を適宜調整してもよい。

<注> **JES Journal のサイズはB5判**であり、原稿は写真印刷にて縮小される。

(3) ページ番号

ページの下部(フッター)中央に、アラビア数字でページ番号をつけること。

(4) 本文等のフォントとサイズ

本文、注、謝辞、引用文献に使用するフォントとサイズについては、和文原稿の場合はMS明朝で10.5ポイント(数字と英語はTimes New Romanで10.5ポイント)とし、数字は桁数にかかわらず、全て半角表記とする。英文原稿の場合はTimes New Romanで12ポイントとする。行スペースについては、和文・英文いずれの原稿も11ポイントとする。ただし、図表、グラフ、付録については、英文も和文も、サイズを10ポイントまで下げができる。

(**JES Journal のサイズはB5判であり、最終的に原稿が縮小される**ので、その際に図表、グラフ、文字、数字が小さくなりすぎないように注意すること。)

本文、注、謝辞、引用文献は両端揃え(ジャスティフィケーション)をすること。

(5) 論文題目等のフォントとサイズ

[和文原稿の場合]

- 論文題目: MS明朝・18ポイント・中央揃え
- 副題: 副題はダッシュ(ー:「ダッシュ」と入力して変換したもの)の中に表記し、ダッシュの前後には半角スペースを置くこと。
- 執筆者氏名: MS明朝・14ポイント・中央揃え
- 所属機関: MS明朝・14ポイント・中央揃え・氏名の後ろに置く全角丸括弧内に表記すること
- キーワード: 日本語はMS明朝、英語はTimes New Roman・12ポイント・中央揃え
- 要旨見出し: MSゴシック・12ポイント・ボールド体・中央揃え
- 本文セクション見出し(番号は半角): MSゴシック・12ポイント・ボールド体・中央揃え
(例: 1.はじめに, 2.先行研究)

- 本文小見出し（番号は半角）：MSゴシック・12ポイント・ボールド体・左揃え
(例：3.1 参加者)
- 句読点：全角の「,」「。」を用いる。
- 文中で使用する（丸括弧）や「カギ括弧」は全角を用いる。
- 引用文献一覧の年号のみ半角の(丸括弧)を使用する。
- 図や表等は図表番号、タイトルと共に左寄せする。図表番号とタイトルは、図及び表の上に配置する。また、図表が複数ページにまたがらないようにレイアウトすること。ただし、1ページの中に収められない長い表は除く。図や表は写真データ（スクリーンショット）ではなく、編集可能なデータを用いること。
- 漢字変換の際、難解すぎる漢字に自動的に変換されていないかを確認すること。（例えば、「公文書における漢字使用等について」では「かつ」「したがって」「ただし」「ところが」「また」「ゆえに」などは原則ひらがなを使用することとなっている。）

[英文原稿の場合]

- 論文題目：Times New Roman・18ポイント・中央揃え
タイトルケース（題目、副題の最初の語及び主要語と4文字以上の語の最初を全て大文字で表記する。小文字で始めるのは3文字以下の接続詞、冠詞、前置詞とする）を用いること。ただし、引用文献一覧ではセンテンスケースを用いるので注意すること。
- 副題：副題は、論文題目に続いてコロン(:)を打ち、半角スペースを空けたのち、タイトルケースで表記する。
- 執筆者氏名：Times New Roman・14ポイント・中央揃え
- 所属機関：Times New Roman・14ポイント・中央揃え・氏名の後ろに置く半角丸括弧内に表記すること
- キーワード：Times New Roman・14ポイント・中央揃え
- 要旨見出し（Abstract）：Times New Roman・12ポイント・ボールド体・中央揃え
- 本文セクション見出し：Times New Roman・12ポイント・ボールド体・中央揃え
(例：1. Introduction, 2. Method)
- 本文小見出し：Times New Roman・12ポイント・ボールド体・左揃え（例：2.1 Participants）
- 図や表等は図表番号、タイトルと共に左寄せする。図表番号とタイトルは、図及び表の上に配置する。また、図表が複数ページにまたがらないようにレイアウトすること。ただし、1ページの中に収められない長い表は除く。

(6) 図表番号と図表タイトル

図表番号には半角数字を用いる。図表番号及び図表タイトルは図表の上に左揃えで配置し、2行に分けて記載する。英文原稿においては図表番号をボールド体、図表タイトルをイタリック体にする（以下の例を参照）。JES Journal Vol.26和文・英文サンプルファイルを確認すること。

（和文原稿の場合）

表1

事前テストの結果

（英文原稿の場合）

Table 1

Results of the Pre-test

また、図表に注を付す場合は図表の下に左揃えとし、以下の例に倣って記載する。英文原稿においては Note(s). をイタリック体にする。

（和文原稿の場合）注 どちらのテストも満点は24点であった。

（英文原稿の場合）Note. Both tests had a maximum available score of 24.

(7) 引用文献の書式

文献は、本文中に記載された「引用文献」を記載する。順序は、和書と洋書の文献を混ぜて、アルファベット順に書くこと。和文論文は引用文献の出版年についてのみ、半角の(丸

括弧)を使用し、その後ろに半角のピリオドを打つこと。洋書の文献については、*Publication Manual of the American Psychological Association* (American Psychological Association)の第7版に準拠すること。その他は、下記を参照すること。なお、例に挙げた文献は(サ)以外は架空のものである。

(ア) 紀要等の論文集の場合

磐梯二郎 (1980). 「発達段階に応じた英語指導法 —書くことの活動に焦点を当てて—」『英語教授法』第2号、第1巻、211–219.

(イ) 単行本の場合

磐梯二郎 (監修) (1958). 『英語の歴史』東南書店.

(ウ) 単行本の中の論文の場合

白河明士 (2003). 「第2章3節 4技能の統合的教授法」山城護郎・筑波太郎・平泉一吉 (編)『21世紀の英語教育研究』(pp. 101–126) 太平洋書店.

(エ) 雑誌論文の場合

長野三郎 (1997). 「Native Speaker の研究」『20世紀の英語教育』8月号、1–13. 武山書店.

(オ) 著者が複数いる場合

琵琶真一・青森明彦・Stephen, D. H. (1986). 「英語でコミュニケーションをする生徒の特徴」『猪苗短期大学紀要』第1号、第2巻、27–46.

(カ) 同じ著者の文献が連続する場合

黒木賞三郎 (1996). 『英語評価論の変遷』大名書店.

黒木賞三郎 (2008). 『英語学習者の動機づけに関する研究』開運堂書房.

(キ) 文部科学省(文科省)関係書籍の場合:

文部科学省 (1999). 『効果的英語コミュニケーションを目指した指導と評価』(中学校外国語指導資料)開運堂書房.

(ク) 単行本の場合(本のタイトルはイタリックにする)

Carter, R., & McCarthy, M. (1988). *Vocabulary teaching*. Wiseman.

(ケ) 雑誌論文の場合(雑誌名はイタリックにする)

King, J. A. (1996). The role of episodic memory. *SELE Quarterly*, 22(2), 17–39.

(コ) [英文原稿]での注意(和文図書は書名をヘボン式ローマ字で記載し、英訳をつける。)

Kusatsu, S. (2000). *Nihon no rekishi* [Japanese history]. Shinzanshoten.

(サ) 文部科学省(2017).『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説外国語活動・外国語編』
https://www.mext.go.jp/content/20201029-mxt_kyoiku01-100002607_11.pdf

(8) その他

本執筆要領に特に定めがない事項に関しては、原則*Publication Manual of the American Psychological Association* (American Psychological Association)の第7版に準拠すること。

8. 投稿論文の査読における観点項目と内容

投稿論文は、それぞれ以下の観点項目と内容に基づき査読が行われる。

【研究論文】

1. 独創性: 関連する先行研究を踏まえながら新しい視点や解釈を提示し、研究に適切な意義づけを行っているか。
2. 研究内容: 研究の方法は明確に記述・解説されるとともに適切かつ妥当であり、なおかつ、研究結果について充分な論拠・証拠を開示しているか。
3. 論理性・表現: 論旨に一貫性があり、表現が適切であるか。
4. 意義・貢献: 研究成果が小学校における学術研究・授業実践にとって意義があり、小学校英語教育の発展に寄与する可能性があるか。
5. 全体評価: 研究論文として全体的な完成度が高いか。

【実践論文】

1. 独創性: 関連する先行実践を踏まえながら新しい実践を行い、その実践に適切な意義づけを行っているか。

2. 実践内容：実践の内容は明確に記述・解説されるとともに適切かつ妥当であり、なおかつ、実践結果について具体的根拠に基づいて的確な考察・省察を行っているか。
3. 論理性・表現：論旨に一貫性があり、表現が適切であるか。
4. 意義・貢献：実践成果が小学校における授業実践・実践的研究にとって意義があり、小学校英語教育の発展に寄与する可能性があるか。
5. 全体評価：実践論文として全体的な完成度が高いか。

9. 投稿原稿の査読結果及び取り扱い

投稿原稿の査読（1次審査）結果（「採用」「採用候補」「不採用」のいずれか）は、編集委員会の議を経て、2025年10月中旬までに投稿者（筆頭著者）に通知される。そして、「採用候補」原稿に対する最終的な査読（2次審査）結果（「採用」あるいは「不採用」）は、編集委員会の議を経て、2025年12月中旬までに投稿者（筆頭著者）に通知される。なお、上記の査読結果に関する質問や問い合わせは一切受け付けない。

10. 採用原稿の校正及び取り扱い

- (1) 校正は初校のみ執筆者が行う。また、書式等を編集委員会が変更することがある。
- (2) 本学会誌に掲載された投稿原稿を無断で複製あるいは転載することを禁じる。著作権は小学校英語教育学会（JES）に属し、複製あるいは転載する場合には文書による承諾を受けることとする。

11. 学術文献データベースへの登録

掲載されたすべての研究論文・実践論文は刊行1年後を目処に電子化して、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）が運営する「科学技術情報発信・流通総合システム」(J-STAGE)に登録する。

12. 原稿のテンプレートの使用及びサンプルの確認

執筆に際し、学会誌編集委員会指定のテンプレートを使用するとともに、学会Webサイトに掲載のサンプル（Wordファイル）を確認すること。

13. 投稿にあたっての倫理的指針

- (1) 研究及び投稿にあたっては、研究・調査に参加したり、協力したりする者（以下、「調査協力者」という）の立場に配慮し、調査協力者が不利益を被ることがないように配慮しなければならない。
- (2) 実験や調査を伴う研究を実施する場合には、研究や調査へ参加・協力について、調査協力者あるいはそれを保護する立場にある者の同意を得るものとする。
- (3) 収集したデータの取扱いについては、個人のプライバシーを侵害することができないように厳格に管理する。
- (4) どのような配慮を行ったかを、本文中に記載すること。執筆要領6.論文の構成(6)本文[(c)方法(倫理的配慮についての言及を含む)]、及び和文・英文サンプルを参考に記載する。
- (5) 利益相反については、執筆要領6.論文の構成(8)付記、及び和文・英文サンプル下線部分を参考に記載する。例として、利益相反がない場合、「なお、本論文に関して、開示すべき利益相反関連事項はない（The authors declare no conflicts of interest associated with this manuscript.）」等と記載する。

14. 投稿に関する問い合わせ

投稿に関する問い合わせは、下記メールアドレスへ送ること。なお、論文は執筆要領3.投稿原稿の提出方法に記載している投稿フォームから受け付けており、下記メールアドレスへ論文を投稿しても受理されないので注意すること。

（問い合わせ先） jesjournal26@gmail.com